

平成29年度アドバイザー派遣事業実施レポート

鳥取県立米子養護学校

1 研修テーマ 「一人一人をみつめ、自立と社会参加につなげる授業づくり」

2 実施期日 平成29年11月21日(火) 9:50~16:30

3 実施場所 鳥取県立米子養護学校

4 アドバイザー 広島大学大学院教育学研究科 准教授 竹林地 毅 氏

5 研修内容

午前中は各学部1グループずつ授業を参観していただき、午後に授業改善に向けて指導、助言をいただき、続けて『児童生徒の主体的な活動を促す授業づくりと学習評価』をテーマに講義をしていただいた。

指導助言・講義の内容

(1) 小学部1学級 『まなびタイム』(自立活動・国語・算数)

○自立活動

次は何をめざすのか？

- ・決められたルールに子どもを乗せる授業ではなく、学習の中で思考、判断、錯誤のある授業づくりをする
→問題を投げかけて待つ
- ・今後は、「児童が課題を選ぶ」「学習活動に友達との関わりをもたせる」「関わり→題材の設定次第」だと考えられる。
- ・授業中に不適応な行動や言動があったら「次はどうする？」と児童に聞き、更に児童同士で話し合いをさせてみてはどうか？

○個別課題学習について

- ・課題ボックス内にある課題を自分で行っているが、(これが悪いというわけではないが)児童の生活につながったものか、次はどう展開させていくのかを検討する必要がある。(与えられた課題をするだけになっていないか?)
- ・課題ボックスに児童のしたい物を入れる方法をとってみてはどうか。

○目標設定について

- ・自分で考えてはどうか？
- ・児童から「〇〇がしたい」を出す
- ・教師が教えたことと子どもが学びたいことにギャップがないかどうか見直しをする。

○学習評価について

- ・「花丸をもらいましょう」・悪くはないが、わかって楽しい場面をつくっていく。わかること自体に面白さを見出せる活動を仕組む。また関わり合いながらすることのできる題材を考える。(内発的動機付けをする) 例)手紙をもらってうれしい
- ・ねらいや評価を子どもにわかりやすく伝えるために、活動をしっかりさせる。そうすることで、子どもは目標をもつことができるし、自己評価を意欲的に行う。

○子どもの捉え方について

①「生活する対象」として見るのか？

子ども達が満足感を得るために十分やらせる
→自分で目標をもつようになる



②「教える対象」として見るのか？

教えようとずっと見ている

(2) 中学部1グループ 『作業学習』 製作・農業部【農業部】(単一学級)

○教師の働きかけについて

- ・「何で〇〇するの?」「どうして〇〇しているの?」と、教えるのではなく問うことが大切
- ・生徒が思っていることを教師が言葉にしてあげる

○評価のポイント

- ・間違ふ時こそ学びのチャンスがある
- ・多面的にみる・態度、意欲、発想、働きかけ
- ・授業がうまい人はほめ上手なので、いい時はほめる。
- ・お客さんをもっと使う(仕分けを見せる、説明する、お茶をふるまう)→活きた評価

(3) 高等部1グループ 『表現活動』表現活動Aグループ【身体表現】(単一学級)

- ・自分の力を出し切る→拍手をもらう→自己肯定感が高まる
- ・教師が妥協しない姿があった。そこから生徒もあきらめずに取り組むので、その後のできた喜び、更に次へのやる気へとつながっていく
- ・活動表現・・・イメージを追及する(「～みたいこ」「～のように」と生徒の言葉で表現したり、オノマトペなどを使ったりして、イメージに合う言葉を見つけていく)
- ・評価・・・生徒から改善点やできたことを発表していたので、このようにじっくりと生徒と向き合う姿勢が大切

(4) 講義、その他

講義の中で、「学ぶとはどのようなことか」(中央教育審議会初等中等教育分科会 教育課程企画特別部会 論点整理(平成29年8月)「新しい学習指導要領等が目指す姿」より)から始まり、「育成を目指す資質・能力について」「主体的な行動を促す支援について」「学びの文脈をつくる単元・授業づくり」そして「学習評価のあり方」について話を頂いた。児童生徒が学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、自分の能力を引き出し、学習したことを活用して、主体的に人生を切り拓いていく人へと育成できるよう、学校は授業づくりを行ったり、協働性・同僚性のある組織を作ったりすることが必要ではないかということを示唆して頂いた。

6 まとめ

学校内の研究を進める中で、児童生徒が主体的な学びをするための支援の工夫について、各学部の授業グループで検討されてきた。学習評価について「児童生徒が活動で自発的に考えたり表現したりできれば、自ら評価するし、目標設定もできる」と講師からアドバイスを頂いた。これらのことから、今後は、児童生徒が立案したり想起したりする機会を設定し、「できた」「楽しい」「もっとやりたい」という意欲を喚起できるような授業づくりを本校で取り組んでいきたい。